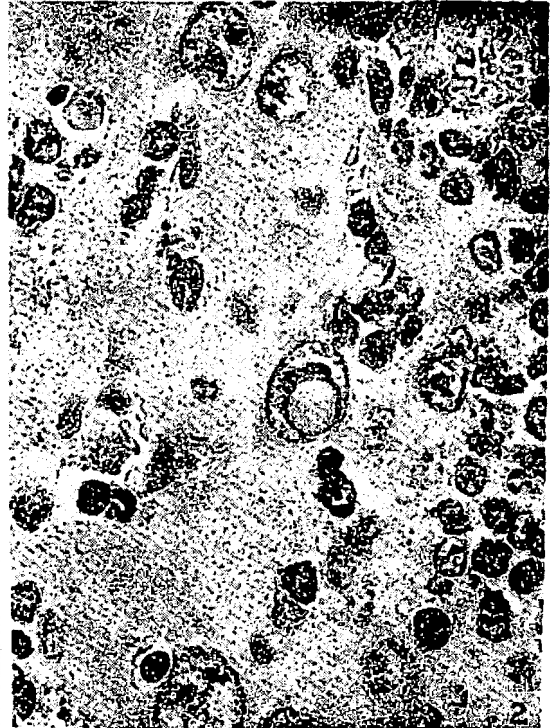
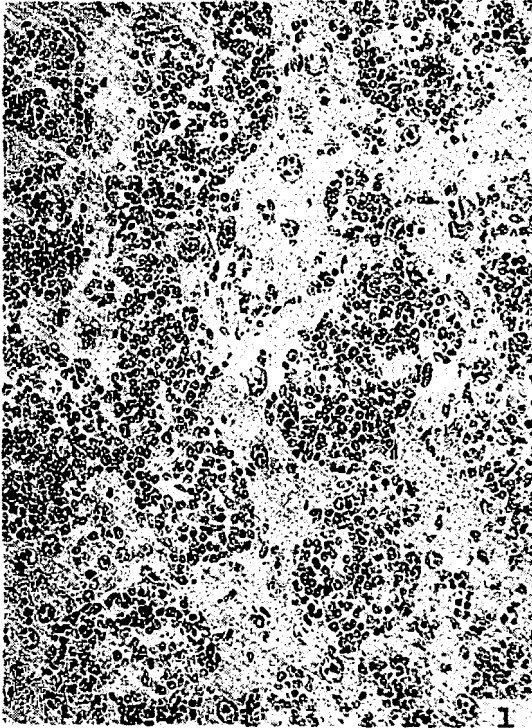


リンパ性白血病のマウス肝

第10回獣医病理学研修会標本 No.147

東大医科研獣医学研究所



系統BALB/C♀、繁殖用種親マウス、15ヶ月令体重46.5g。食欲不振、運動不活発、腹式呼吸をおこない、被毛失沢立毛。腹部腫脹著しく、結膜蒼白色。末梢血は赤血球359万、白血球77,200。大型単核円形または楕円形の細胞質に乏しい血中の腫瘍細胞は強い塩基好性をしめし、パーオキシダーゼ反応陰性であった。剖検所見では、血腫腹水多量で肝、脾の腫大著しく、肝は褐色をおび表面疎剛、各部のリンパ節の腫脹は著しく、とくに腋窩、腰、鼠径リンパ節はえん豆大に腫脹、断面は白色髄様であった。胸腺およびバイエル板の腫大はなかった。肺では左葉に小豆大の白色腫瘍があり、各葉に計20ヶの暗赤色点状斑が散在していた。

組織学的所見：肝では大型の核をもつ細胞質に乏しい幼若リンパ球様の円形塩基好性の腫瘍細胞が中心静脈、グリソン氏筋、または小葉内血管を中心に多発性結節性に浸潤し(図1、H-E、×200)ときに核分裂像をのし多核巨細胞も混在する。azanおよび鍍銀染色では、膠原線維が血管を中心に、嗜銀線維は血管周囲あるいは腫瘍細胞集簇周囲に増生し各種瘍細胞と嗜銀線維との密着像はみられなかった。肝細胞索は、腫瘍細胞集簇に圧迫され周囲の肝細胞は彎曲・扁平に変形し細胞質はや、強

い塩基好性をしめす。著しく腫大した肝細胞が多数存在し、肝細胞核は円形または楕円形に腫大し、核小体およびクロマチンは概して核膜近くに偏在しときにクロマチンにふちどられた大小不同の円形または楕円形のネオン好性封入体をもとめる。(図2、H-E、×1600)この封入体はギムザ染色で赤色、PAS染色陰性、銀メチナミン染色陰性、Feulgen 反応陰性であるが、Scharlach rot および oil-red O で赤色に染色され Luxol fast blue-cresyl violet 重染色では Luxol fast blue 陽性で磷脂質の存在が疑われた。

肝以外の組織では、脾、主要リンパ節、肺、心、胃、脾、副腎、腎、子宮、膀胱、外腹斜筋および骨髄に腫瘍細胞の浸潤がみられたが臓および骨髄などにはみとめられなかった。なお肺では前記腫瘍細胞浸潤のほかに adenocarcinoma の併発があった。核分裂体は肝以外の組織には検出できなかった。

このような肝細胞核内封入体の出現はリンパ性白血病以外の場合にもみられており、ウイルス説、核膜陥入による細胞質の核内侵入説、肝細胞傷害にともなう核小体変性説などがある。

組織学的診断：リンパ性白血病のマウス肝(肝細胞核内に封入体の出現をともなう)。